

国土審議会第17回北海道開発分科会 議事概要

- 1 日 時：平成28年1月20日（水）17:00～19:00
- 2 場 所：中央合同庁舎第3号館11階特別会議室
- 3 出席者：[委員] 奥野分科会長、大内分科会長代理、稲津委員、逢坂委員、中村委員、堀井委員、前田委員、佐藤（信）委員、秋元委員、石原委員、垣内委員、佐藤（俊）委員、中嶋委員、橋本（哲）委員、高橋委員（代理：山谷副知事）
[国土交通省] 土井国土交通副大臣、岡部北海道局長 ほか

4 議事次第

- (1) 開会
- (2) 国土交通副大臣挨拶
- (3) 議事
 - ① 計画部会からの報告について
 - ② その他
- (4) 閉会

5 議事及び主な発言内容**(1) 計画部会からの報告について**

資料2-1及び大内委員配布資料により、大内委員（計画部会長）から、計画部会での検討状況について報告され、意見交換が行われた。

本日の意見の扱いについてはパブリックコメントの意見と併せ奥野分科会長へ一任されることとなった。

留意事項の取扱いについて、奥野分科会長へ一任されることとなった。

(2) その他

今回の分科会は、平成28年3月10日に開催することとなった。

【委員からの主な意見】**《総括的な評価など》**

- ・ 多様な視点が盛り込まれ、内容は評価できる。
- ・ 新たな計画の特徴としては、生産空間を始めとする基礎圏域という概念の創設や人材に着目するなど新たな視点が盛り込まれている。主要施策についても、ハード・ソフトの両面から多岐に渡っており、充実しているものと感じている。
- ・ 計画を具体的に進めていくには、わかりやすさが重要。右から左まで網羅しているが故に、力点がどこにあるのかがわかりづらい。わかりやすさという点で、さらにブラッシュアップしていく必要がある。
- ・ この計画の期間は10年としているが、昨今の世の中の動きはとても速い。自治体では、5年間に短縮しているところもある。計画期間に捉われず、柔軟な見直しができるようにすべき。
- ・ 北海道の優位性をいかに高めて国家の発展に寄与していくかの視点が大切。

- ・ 創造性の観点が非常に重要であり、札幌へ知の集約化を進めていくといったテーマも必要であろう。日本は今後大きなシンガポールになるべきとの考えもあるが、北海道でも「何かを学びに行ってみたい」と思われるような魅力のある文化的なアイデンティティを持つようになることが重要。
- ・ 「世界の北海道」、「世界水準の価値創造空間」を目指し、ASEANの発展を取り込み、イスラム圏や欧米へも拡げていくことが重要。
- ・ 「地域としての生き残りをかけた10年」と大きな危機感を提起した計画であるが、国、道、市町村だけでなく道民の皆さんも計画に込められた思いを共有し、計画と一緒に推進していただけるような体制をつくってほしい。
- ・ 計画の推進に当たっては、道民の力が大事であり、計画をわかりやすく伝えて、多くの方にプレイヤーになってもらうことが重要。一億総活躍社会と言われているが、北海道では550万総活躍社会ということになる。この計画が、道民の動き出すきっかけとなってほしい。
- ・ 計画をいかに実行に移していくかが重要。誰が、いつ、何をするのか。PDCAサイクルをしっかりと行い、ベストプラクティスを共有することが極めて重要。
- ・ 産学官民金連携による地域プラットフォームの形成・運営に当たっては、市町村長の強い決意やリーダーシップが重要。その動きに、民間も賛同してついていくもの。
- ・ 一年一年は小さくとも例えば10年間で7兆円と考えれば大きなグランドデザインも書ける。金額的な考え方をどこかに盛り込めないか検討してほしい。
- ・ 民間にできることには限界がある。採算に乗らないからやらないというのではなく、有効性・有用性の観点で、費用対効果が見込めるのであれば公共事業として行政ができることがあるのではないか。また、計画の推進に必要となる予算確保も重要。
- ・ 計画の推進に当たっては、予算措置等、実効性を高めるための対応をお願いしたい。
- ・ 計画の推進に当たっては、インフラ整備の目標年度も含めて、指標等による目標設定が必要ではないか。
- ・ 北海道においても、国の計画策定のタイミングに合わせて新たな計画を策定している。新年度から推進していくことになるが、道内市町村と一体となり、人を育て、地域を作り、世界から人を呼び込み、豊かに暮らせる北海道にするための取組を進めていきたい。

《社会資本の整備・維持管理など》

- ・ 交通ネットワークの強化は北海道にとって解決していかなければならない課題である。
- ・ 新千歳空港に加えて丘珠空港も併せて将来的な機能強化を検討してほしい。
- ・ 医療や防災拠点としての活用やジェット化による観光拠点としての活用など丘珠空港の最大限の活用を札幌市とも連携し検討してほしい。
- ・ 北海道新幹線の札幌延伸も踏まえて札幌の魅力を高められるよう札幌駅周辺のまちづくりにしっかりと取り組んでいかなければならない。
- ・ クルーズ船は福岡との差が広がっており、港湾機能の強化が必要である他、高速道路アクセス確保など交通ネットワークの強化が必要である。
- ・ 全国的にクルーズ船の来航数が増加しているが、あまり整備されていないような場所に着岸するような状況も見られ、その対応も必要ではないか。

《地域構造など》

- ・ 北海道型地域構造として基礎圏域の形成は是非進めてほしい。その中で、医療の問題として、二次医療圏の医療機関と中核的な医療機関との連携の強化が重要である。
- ・ 地方から札幌市への流入増の傾向が続き、地方の人口減少に歯止めがかかっていないなか、基礎圏域の考え方を大切にし、生産空間の第一次産業を守っていく人づくり、生活圏をいかに作っていくかが大切であり、実行力を高めていくことが必要である。

《人口減少への対応・人材の育成・対流促進など》

- ・ 計画には「人」が大事と記載されており、まさにそのとおりだと感じている。しかしながら、大事だというだけでは成長しない。具体的に何をどうするのか検討すべき。
- ・ 人づくりを重視している点には強く賛同する。大学に対しても人材育成に関する期待や要請が高まってきているが、一方で予算も人も限られており、基盤は弱まっている状況である。是非、「人こそが資源」と掲げる計画の推進に当たっては、人材への投資や連携しやすい条件整備に取り組んでほしい。
- ・ 若い人の育成が重要であるが、そのためには若い人の視点が大切。特に光ファイバーなど情報基盤の整備は若い人にとっては必要不可欠なものである。情報過疎の地域では若い人は生活できない。
- ・ この計画をきっかけとして、北海道がフロンティア精神に溢れる若者の活躍の舞台になることを期待する。
- ・ 計画の推進に当たっては、是非とも若い人に関わらせて、さらに権限を与えるような取組を考えてほしい。権限が与えられプロジェクトを動かしている姿が見える化し、それがフロンティアだと発信することにより、多くの人に北海道に来てもらえるのではないかと感じている。
- ・ 人口が減少していく中でどのように労働力を確保していくのかは喫緊の課題である。
- ・ 地域づくりの人材育成は非常に多様である。30年前に多様な主体が参加して地域を作ることを国土政策の軸に置いたが、これが今いろいろな方向に幅広に展開して様々な政策に展開されるようになったと感じている。

《食・農林水産業の振興》

- ・ 北海道の農業は多様性があり、その良さを活かすことが必要。また、北海道内で植物工場が開設されてきており、これから重要となる分野だと考える。また、漁業については、今後は栽培型漁業に取り組むことは必須。
- ・ 農作物の北限が高緯度になってくる等、温暖化の影響が農業にも出てきており、温暖化対策についても一次産業を考えるに当たっては重要となってくる。
- ・ アメリカでは日本と異なり農業指導のシステムが大学に一元化されている。北海道においても見習うべき部分があるのではないかと感じる。
- ・ 安全安心であり、品質の良さを強みとする北海道の産品等について、海外との競争に戦って勝ち、世界の消費者から選択されるようにならないと行けない。北海道から世界への商流を太くすることが重要。

《観光振興》

- ・ 東アジアだけでなく欧州からの観光客もターゲットとして、長期的視野に立って長期滞在やリピーターを増やしていくための官民挙げたおもてなしに取り組んでほしい。
- ・ インバウンド観光客による農水産物の買い物はまだ十分とは言えない。検疫の効率化など農林水産省の施策とも連携を図り推進して行ってほしい。
- ・ 観光旅行においてツールが多様化してきているなか、北海道では空き家の活用など様々なツールを結びつけるようなコーディネーターが不足している。
- ・ 夏と冬の観光客数の差を埋めていくためにもMICEの充実が必要であるが、空路だけでは天候リスクが大きいため、陸路、新幹線のネットワークが確保されることが重要だと考える。
- ・ 景観の保全を考えると、生産活動に支障はなくても、景観維持にはコスト、時間、手間暇がかかるため地域だけでは守りきれないこともあり、行政のバックアップが必要である。
- ・ 北海道には、景観、温泉、祭り、雪といったバラエティに富んだ多くの観光資源がある。これらの資源に若者の発想力を活用して、例えば食と組み合わせるなど、パッケージ化することが重要。
- ・ 「世界の北海道」をどのようにアピールしていくか、冬季オリンピック・パラリンピックの招致活動も関連付けて考えればこの10年間は非常に大切な期間になる。
- ・ 冬季オリンピック・パラリンピックの招致についても、国際的なスポーツイベントの開催といった表現でも良いので計画の中で触れてほしい。
- ・ 冬季オリンピック・パラリンピックの招致について、北海道内で気運が高まっている。これから長きに渡って、大規模スポーツ大会を北海道に誘致していくことを踏まえた際に、その点を計画に盛り込むことができないか。
- ・ 景観が良好な地域では、混雑度が上がるにつれて旅行者の満足度が低下することが明らかとなっている。旅行客の数だけではなく質も高めていかなければならない。上質な観光資源を用いてうまく観光消費がされるような仕組みづくりが必要。
- ・ 北海道新幹線について、空港の機能強化や二次交通のアクセス改善により、新幹線の効果を全道に波及させることが必要。
- ・ 2020年に「民族共生の象徴となる空間」が一般公開する。来場者目標は100万人と設定しているものであり、アクセスの改善が必要。

《産業の振興》

- ・ 北極海の環境を保ちながら北極海航路の活用や資源開発をしていくようになった場合、北海道の役割は大きい。シンガポールが果たしているようなアジアのゲートウェイとしての役割を北海道が果たせるのではないか。北海道の優位性を活かし、価値を最大限に高めていくことが重要。
- ・ 環日本海という視点で、海外への支援などで北海道が役割を果たしていくことも重要。
- ・ 成熟社会における北海道の将来像として、新しいことに挑戦しながら世界に先駆けた社会モデルを示すものとなっている。IoTなどの新しい仕組みを活用しながら、できるだけ民間投資が進むような環境整備に官民連携で取り組む必要がある。
- ・ 農産物を食品として加工するだけではなく、医薬品など更なる高付加価値化を進めることも必要。大学卒業後の若者の雇用につながることを期待できるため、大学等での医療、バイオ、ライフサイエンスの分野を更に充実して行ってほしい。
- ・ 北海道には特色ある大学が数多くあり、大学とのコラボレーションはとても重要である。北海道

には、道内の大学で学ぶが、就職の際に本州に出て行くといった問題がある。この課題の解決のため、大学とのコラボレーションにより、例えば農家のハイテク化を進め、若者に魅力的な産業とすることも有効。

- ・ 広大な北海道において合理的に物流を管理するような物流情報センターが必要である。

《環境》

- ・ 世界的な流れとして、再生可能エネルギーに力を入れることは重要なポイント。どのような手法で広げていくか、具体的にしていくことが必要。

《防災・減災等》

- ・ 災害への対応は起きてからでは遅いので、大きな被害も想定されるなかどうあるべきか、どう向き合うか再確認が必要ではないか。
- ・ 危機管理のための施設については、平時でも活用できるようにしておくことが大切である。北海道については食料供給基地として、また、北極海航路の活用を見据えながら平時においても効果的に首都機能のバックアップ機能が果たせるようにしておくことが必要である。
- ・ 気候変動による災害リスクが高まっている。このためのインフラの整備は必要不可欠。

(以上)

※ 速報のため、事後修正の可能性があります。(文責 事務局)